



”まちづくり自治活動7年目”を控えて

金浦地区まちづくり自治協議会 会長 岡本 重文



明けましておめでとうございます。希望に満ちた新年をお迎えのことと存じます。この1年が、地区の皆様方にとりまして良い年になりますように心からお祈り申し上げます。

さて、金浦まちづくり協議会も早いもので、活動を始めてから6年が過ぎようとしています。私はこの6年間を一つの区切りと考えてまいりました。この協議会活動は、今後益々重要度が増してくると思っております。その為にもしっかりと組織作りを行い、地域の皆さま方の負託に答えていかなければならないと考え、代議員の皆様とも力を合わせて頑張っております。この結果、素晴らしい組織が出来上がったと思っております。

防災部会、広報部会にはじまり、企画・交通防犯・環境の3部会を加え、現在は5部会に担務を分けて、それぞれの部会が互いに切磋琢磨しながら活動しています。詳細は、広報誌4号で説明していますので、省略致します。

またこの組織は男性中心の組織でしたが、現在の国の施策に鑑み、女性の参加が不可欠と考え、各種団体に声掛けを行ったところ、ご理解をいただき現在では、女性代議員数も12名となり(全体の約25%)バランスのとれた組織となったのではと考えています。その証拠として女性代議員が加わってからそれぞれの部会の活動が、一層活発化したことが伺えます。

当地区のまちづくり活動も、そろそろ助走期間を過ぎて奔走すべき期間に入ったと考えています。つまり、次の6年間にに向けて取り組むべき活動の方向性を定める必要があるということです。今回、その一例として、次の世代を担う「中学生」が「この地域に対して」どのような思いを持っているのかアンケート調査を行いました。この調査にあたり、金浦中学校の先生方には大変お世話になり、ありがとうございました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

アンケートの集計結果の一部を、今回の広報誌で紹介しておりますのでご覧ください。この地区に住んでいる中学生のほとんどが『当該地区に対して好印象を持っていること』が分り、先ずは安心した次第です。また、アンケートのなかで地域貢献する活動のなかで参加したいものは何かの質問に対し、伝統行事である祭り等のイベントが多く計上されています。しかし、ご存じの様に金浦地区でも高齢化が進んでいるため、伝統行事である祭り等についても、従来の地区単独で実施するには大変なご苦労がある様です。そこで、これらのことをまちづくり協議会が「仲立ち」するなどで、継続させることによりアンケートを寄せてくれた「中学生」たちの思いに応えることになるのではと考えています。

これ以外にも、私たちの地区では、空き家対策を初めとした「環境改善」等の解決すべき課題が山積しています。今後とも地区の皆様のご理解をいただきながら活動を進めてまいります。

ご指導、ご協力をお願いして年頭のご挨拶といたします。



各部会毎の活動紹介！

金浦地区まちづくり協議会が発足して6年が経過し、28年度からは新たに女性代議員12名が加わって活動の幅が増えています。年頭にあたり、過去1年間の活動内容についてその概要を紹介します。



1 企画部会

(1) 今後の「金浦地区まちづくりの方向性」の検討

これまで地区の皆様「アンケート」にお答えをいただき、そのなかから解決すべき課題を抽出して取組を進めてきました。すべての課題が解決した訳ではありませんが、会が発足して7年目を迎えるこの機会に、これから5年先・10年先の「金浦地区のあり方」等を見据えた計画も必要になるのではと考えています。そこで今回、金浦中学校の先生方のご協力を戴き、この地区の将来を担う生徒の皆さんの考えを伺うべく、8月夏休み期間中の登校日を活用して「アンケート調査」を実施いたしました。

これらアンケートの結果も加えて、計画を見直すべく平成28年11月20日(日)午後13時30分から、笠岡市認知症介護研修センターにて各地区代議員の参加により、『今後のまちづくり活動を進めるにあたっての方向性を求めること』についての検討会を実施しました。



この検討会には、小林笠岡市長をはじめとして岡本副市長並びに関係市職員にも出席していただき、「笠岡市まちづくりアドバイザー」小川先生の指導により進められました。

また、当地区に居住する「地域おこし協力隊」の相澤さんによる”よそ者が見た金浦地区と題した”プレゼンテーションも加わり、少し視点を変えて活動を見直し、「新しい地域の課題発掘」

に取り組みました。この結果は、企画部会で取りまとめ、次年度以降のまちづくり計画に反映させていきます。



【小林笠岡市長・岡本同副市長のご挨拶に続き検討会を開始】

(2) 買物タクシー(買物支援事業)の運行状況



金浦公民館いきいきサロン「袖解さくら会」のメンバーがこの制度を活用していますが、本年度上期に延9回66名の方が実施しました。

現在、旭が丘地区がこの制度を利用するように準備中です。運行を希望される地区がありましたら、遠慮なく最寄の協議

会代議員まで申し出て下さい。

(3) 公民館事業に対する共催の拡大

前年に引き続き、「敬老会」を加えて地区民体育祭、芸能文化祭などの公民館事業に対して共催を行った。

ア 敬老会

平成28年9月11日(日)午前10時から金浦小学校体育館で行われた「敬老会」に、まちづくり協議会も今年度から参画し、地区の民生委員等とともに参加者の受付や案内を行った。

なお、本年度の敬老会参加者は、対象者819人中129人でした。



【まちづくり代議員参加による受付等】



【金浦幼稚園児等による肩たたき】

イ 地区民体育祭

まちづくり協議会代議員諸氏も、同年9月25日(日)午前9時から同校校庭で行われた「地区民体育祭」にも参加し、久しぶりに”すがすがしい汗”を流した。

また協議会は、この機会をいただき「活動のPRを兼ねたPRグッズを賞品の一部として提供」し、体育祭を盛り上げたが、残念なことに、午後過ぎから雨に見舞われたため、競技途中での中断を余儀なくされてしまった。



【小学生による徒競争・転ばぬように】



【幼児による玉入れ風景・ガンバレ！】



【地区別対抗・防災バケツリレー】

ウ 芸能文化祭

毎年恒例の「金浦地区芸能文化祭」が11月27日(日)午前9時から、金浦小学校体育館で開催された。

当日小雨模様であったにもかかわらず、多くの参加者が集い世代間交流事業として、まちづくり協議会メンバーや金浦小学校5年生が共同で育てた”もち米”を使った餅つきも行われた。

また午後からは、「笠岡吹奏楽団」の演奏を楽しむと共に、地域の方々の舞踊やカラオケ等で、終始なごやかな文化祭となった。文化祭のフィナーレには、清水公民館長等から当日の参加者に対し、つくたての餅やお菓子がふるまわれた。



【小学生参加による餅つき・力を込めて！】



【笠岡吹奏楽団の演奏風景】

2 防災部会

(1) 金浦小学校・幼稚園と当摩地区合同で避難訓練を実施

平成28年度防災の日(9月1日)並びに防災週間(8月30日～9月5日)に合せて隔年毎に行われている避難訓練が、同年9月6日(火曜日)午前9時から、全校児童、教職員、当摩地区民並びにまちづくり防災部会員等総勢250名を超える参加者規模で行われた。



【金浦小学校・同幼稚園と当摩地区合同避難訓練の様子】

これは平成25年9月に1回目をスタートさせ、今回で3回目となります。小学校6年生が、幼稚園児をエスコートしながら、第二避難場所に指定されている「笠岡学園」まで整然と実施された。

(2) 旭が丘地区でHUGを用いた防災訓練を実施

平成28年10月2日日曜日午前9時30分から、旭が丘集会所においてHUG(災害発生時に避難所を設置し、ゲーム感覚でその運営方を習得する)手法を用いた防災訓練が実施された。



講師として、笠岡市危機管理課から藪井係長他2名をお招きし、地区民28名とまちづくり協議会から6名が参加した。この訓練は、初めて経験する地域の方々がほとんどで、興味深々のなかにも実効のある研修となった。

(3) 避難場所標識及び防災倉庫表示シール並びに防災資機材の追加配備

防災部会は、地区内の「災害時緊急避難場所」58か所を指定したうえで、本年3月にその一覧表を作成して全戸に配布しましたが、このたび避難場所現地に標識を設置しその表示をしました。

笠岡市の指定避難場所を除き、避難指定建物6か所と避難誘導のための屋外用として24か所に設置しております。



【緊急避難場所看板を作成中の防災部会員】

また、鉄北地区と大河地区に防災倉庫を追加配布すると共に、非常時に防災資機材が活用できるように各地区の倉庫にその表示を行った。



【緊急避難場所標識と防災倉庫設置例】

3 交通・防犯部会

(1) 児童・生徒の通学路等の整備

まちづくり協議会では、児童・生徒の『登下校中の交通事故の芽』を刈り取る意味合いから通学路の整備を進めてきましたが、今回新川地区から当摩地区に至る市道の改善や金浦地区に横断歩道新設等の整備ができましたので次に紹介します。さらに、これ以外の箇所でも保護者の皆さんでお気づきの危険箇所があれば、最寄の協議会委員まで情報をお知らせ下さい。

※ 新川地区の通学路(市道)改善状況

【改良前】



【改良後】



【新川から笠岡学園経由当摩方面への通学路(市道)に減速を表示】



【当摩から笠岡学園経由新川方面への通学路(市道)に減速を表示しカーブミラーを新設】

【改良前】



【改良後】



【笠岡学園から新川方面への通学路(市道)側溝に転落防止柵を新設】



【笠岡学園から当摩方面への通学路(市道)の舗装修繕】

※ 金浦地区の通学路(市道)改善状況

【改良前】



【改良後】



【金浦から吉浜方面への通学路(市道)の側溝蓋新設と舗装修繕】

(2) 「子供110番」の見直し整備

設置後10年あまり経過している「子供110番」の看板を一新し、併せて配置箇所を見直した。

いざという場合の対応の機会を増やすため、看



【県道289号線笠岡ダイハツ付近へ横断歩道を新設】

板の設置箇所を、従来の2倍の80世帯にお願いして再配備しています。

(3) 児童の下校時を中心とした見守り活動の開始

登校時における児童の見守り活動については、従来からPTAのお母さん方により充実していたが、今回、懸案であった下校時の見守り活動を始めた。

具体的には、地区内で比較的交通量が多い横断歩道付近や踏切付近等の13か所を指定し、94名のボランティアによる活動に加え、「青パト」運行による”防犯パトロール”による見守り活動を開始した。



【児童の下校時を中心とした見守り活動】

(4) 金浦まち協「青パト」防犯パトロール隊が始動

平成28年11月24日(木)午前9時35分から、金浦小学校運動場において、金浦まちづくり「青パト」防犯パトロール隊の発足式が行われた。まちづくり自治協議会をはじめとして地域安全推進員等を加えた14名の隊員に、笠岡警察署署員や笠岡市役所の関係職員が参加し、金浦小学校全校生徒の前で披露

を行った。またこの日、発足式に先立ち、金浦小学校教室において、「不審者侵入に対応する訓練」も行われた。



【金浦まち協防犯パトロール隊・発足式の様子】



【勢揃いした青色パトロール車】

4 環境部会

(1) 吉田川沿いに”ゴミポイ捨て防止”啓蒙看板を設置

環境部会代議員等11名は、平成28年7月17日(日)午後から2組に分れて、吉田川沿い並びに金浦湾金浦側沿岸8か所に「ゴミポイ捨て防止啓蒙看板」を設置した。

設置後ゴミポイ捨て件数の減少傾向が伺えるため、希望の箇所があれば、今後も設置箇所の拡大をしていきます。



【ゴミポイ捨て防止看板の設置中の環境部会代議員】



【金浦湾・金浦側堰堤に設置したゴミポイ捨て防止啓蒙看板】



(2) 空家対策について



近年、全国的に空家は増加しており、当地区でも適正に管理されず老朽化などで危険な状況になっている箇所も散見されます。
空家は、個人の所有物であるため、基本的に管理・処分は個人の責任ですが所有者の高齢化などが原因で個人の管理が困難な場合、防災・防犯等の公共の利益を確保するため、空家が危険な状態になることを防止し、危険な状態の改善を図って、安全で安心なまちづくりに寄与することを目的として、「笠岡市空家等の適正管理に関する条例」が制定され、平成28年7月から施行されています。

環境部会は、企画部会及び笠岡市の関係部課と協働で地区の「空家対策」に取り組んでいます。具体的には、空家を有効活用することで他地区からの定住促進を図ることと、危険家屋等の撤去を進めることです。いずれにしても、私たち地区の空家の実態がどうなっているかを正確に把握しておく必要があります。平成25年度下期に笠岡市で行った外観調査結果をベースとして、今後地区の行政協力委員の協力を得ながら新たに、「地区の空家」の現状について調査を始めたいと思っています。

まちづくり協議会は、「空家対策に併せてまちづくり活動」に対する小林笠岡市長の思いをお伺いし、今後の事業に反映させるため、平成28年8月23日(火)に打合せ会を開催しました。平成25年度の調査では、笠岡市全体の空家は1,800戸あり、うち、活用可能個数は1,100戸で危険家屋は400戸となっています。空家を活用した”定住促進”は、市の重点取組事項の一つでもあり、笠岡市は、空家情報の提供など積極的な市への情報提供を求めています。



【まちづくりに対する説明を行う・小林笠岡市長】

5 金浦公民館でふれあい演芸会を開催

社会福祉協議会金浦支部と金浦公民館は、平成28年12月4日(日)金浦公民館集會室において、鴨方町から細井明氏ご夫妻を招いて「ふれあい演芸会」を開催した。



細井氏は、「定年後の趣味で始めたマジック」といわれましたが、その腕前はなかなかのもの



【観客を巻き込みマジックを披露する細井氏】

で、奥様のバルーンショー・腹話術も加わって、終始笑い声の絶えない演芸会となりました。なおこの日は、公民館審議委員等により「公民館」の恒例年末大掃除も行われました。

【手作り人形“友くん”で腹話術を披露する奥様】

「広報まちづくり金浦」広報誌編集室からのお便り

当まちづくり協議会で交通・防犯部会長を務めていただいていた「枝廣 徹」さんが、本年8月に急性心筋梗塞で急逝されました。彼には可愛いお孫さんがいて、お孫さんを含め地域の子供たちが一人として事故に遭わないように、広報誌で紹介している「通学路整備やカーブミラー等の交通標識の設置」をはじめ、各種防犯対策にも積極的に取り組み、その成果をあげてこられました。その結果、地域の皆様からいただいた交通・防犯関係の要望事項等については、そのほとんどを解決することができました。今後のご活躍が、期待させていただきに非常に残念でなりません。ここに、生前の枝廣さんが残された多くのご功績に感謝すると共に、深くご冥福をお祈りいたします。

合 掌



金浦中学校生徒の
『まちづくりに関係した』
意向アンケート調査を実施



まちづくり協議会企画部会は、金浦中学校生徒の「まちづくり活動に関する」意向アンケート調査を実施した。これは、近い将来、「この金浦地区を担う」現在の中学生たちがどのような考えを持っているかを把握したうえで、今後のまちづくり活動の方向性を決める参考にするために、平成28年8月の夏休み期間中の生徒の一斉登校日に行ったものです。

金浦中学校生徒192名に、アンケートに答えていただいたその結果の概要を以下に紹介します。

表1 アンケート調査に協力いただいた生徒数の内訳
(人)

	金浦地区	城見地区	陶山地区	合計
男性	45	39	16	100
女性	47	30	15	92
計	92	69	31	192

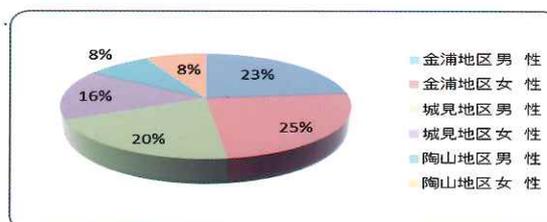
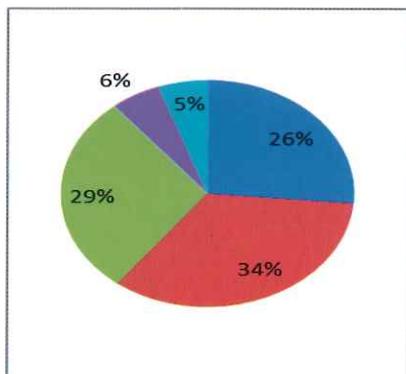


表2 今後も自分の住んでいる地域に住み続けたいと思っていますか
(人)

	金浦地区	城見地区	陶山地区	合計
住みたい	24	18	6	48
やや住みたい	31	22	9	62
どちらでもいい	26	23	13	62
やや住みたくない	5	2	0	7
住みたくない	5	3	3	11

【金浦地区】

回答なし 2人



【金浦中学校合計】

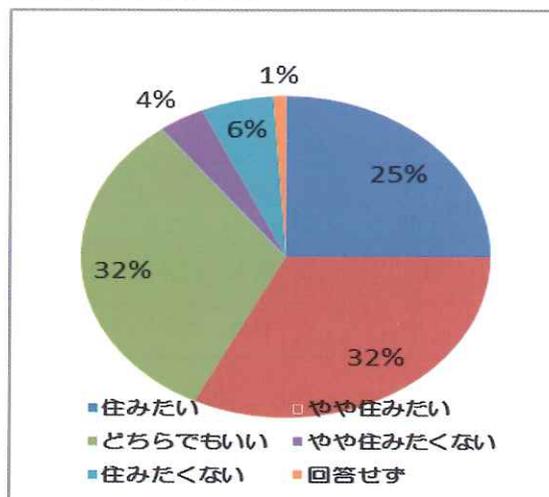


表3 中学生になって地域の活動やイベントに参加したことがありますか
(人)

1 現在参加している	60
2 過去に参加したことがある	109
3 興味はあるが、参加したことはない	15
4 興味もないし、参加したこともない	8
合計	192

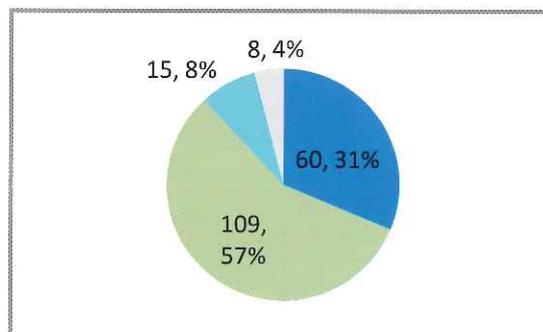


表4 今後、地域社会に貢献する活動で参加したいものは(複数回答可)

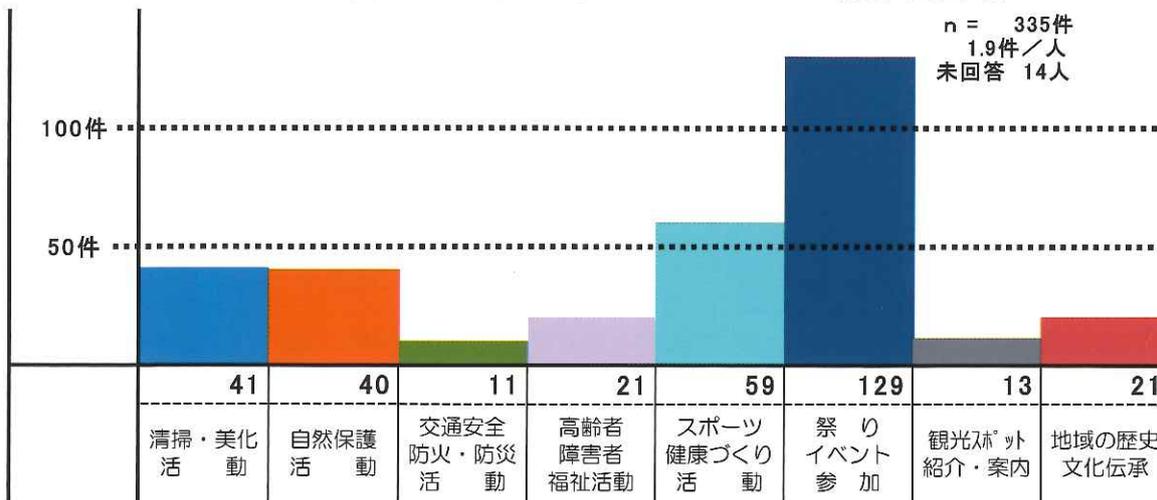


表5 自分の住んでいる地域の誇れるものや大切にしたいものは何ですか

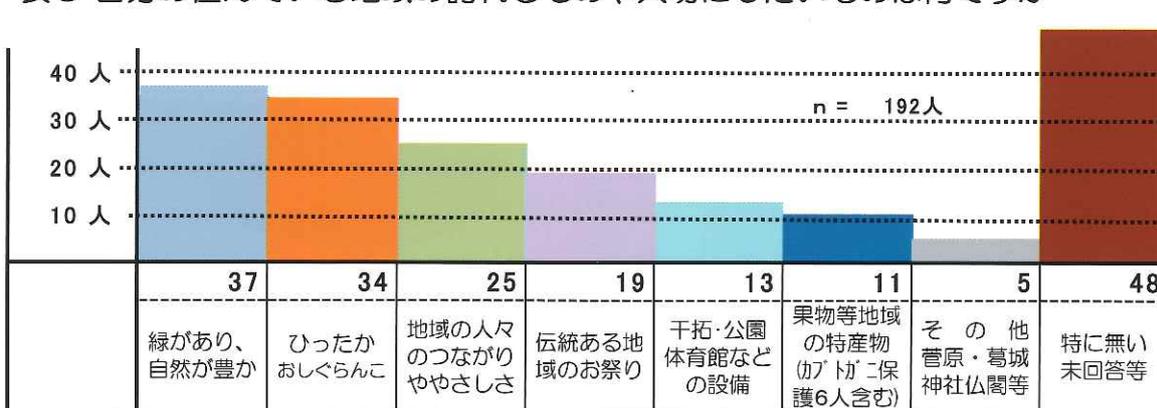


表6 住んでいる地域に感じている不満や改善にしたいことは何ですか

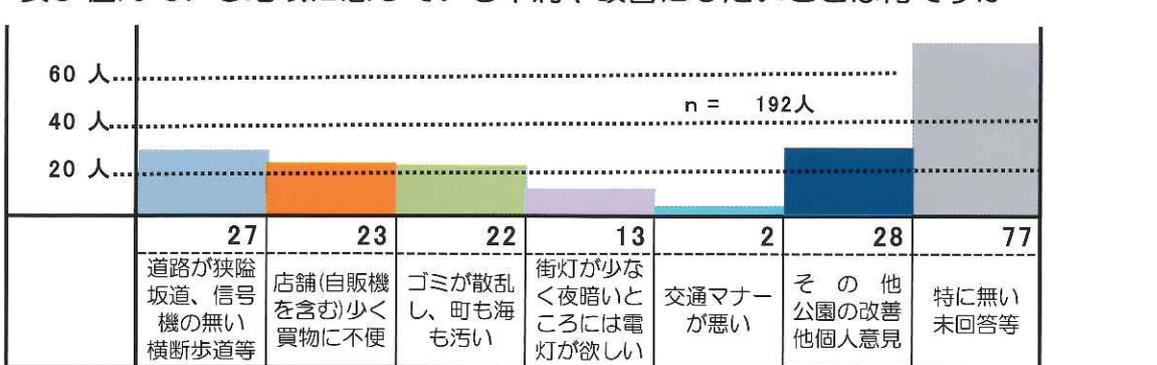
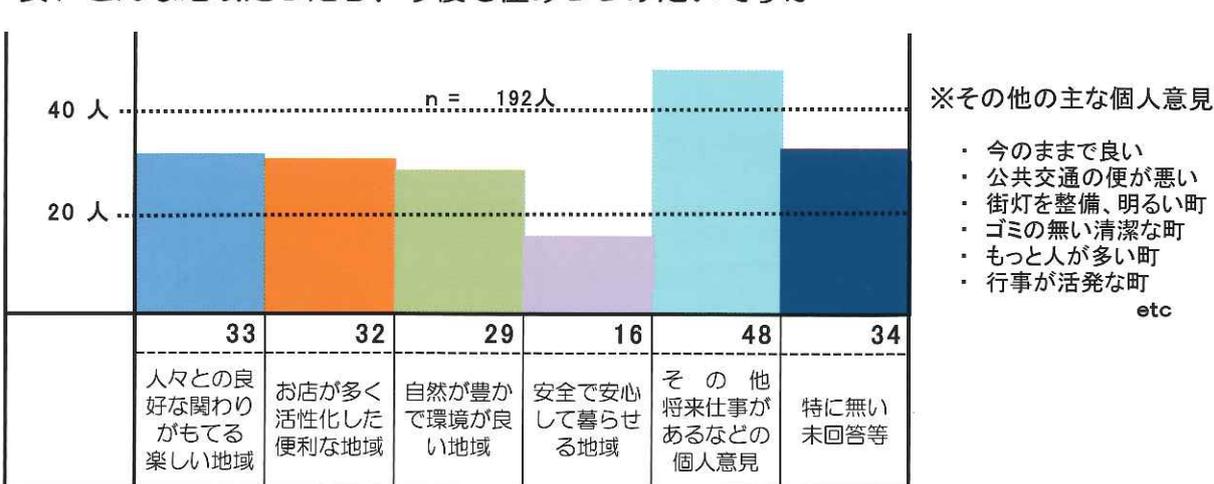


表7 どんな地域だったら、今後も住みつづけたいですか





ご存じですかⅦ？
『認知症ひとり歩き
SOSネットワーク』とは



『家族が見守る』から『地域で見守る』へ

笠岡市は、「地域全体で認知症患者を支えるためのシステム」を構築しています。これが、「笠岡市認知症ひとり歩きSOSネットワーク事業」です。

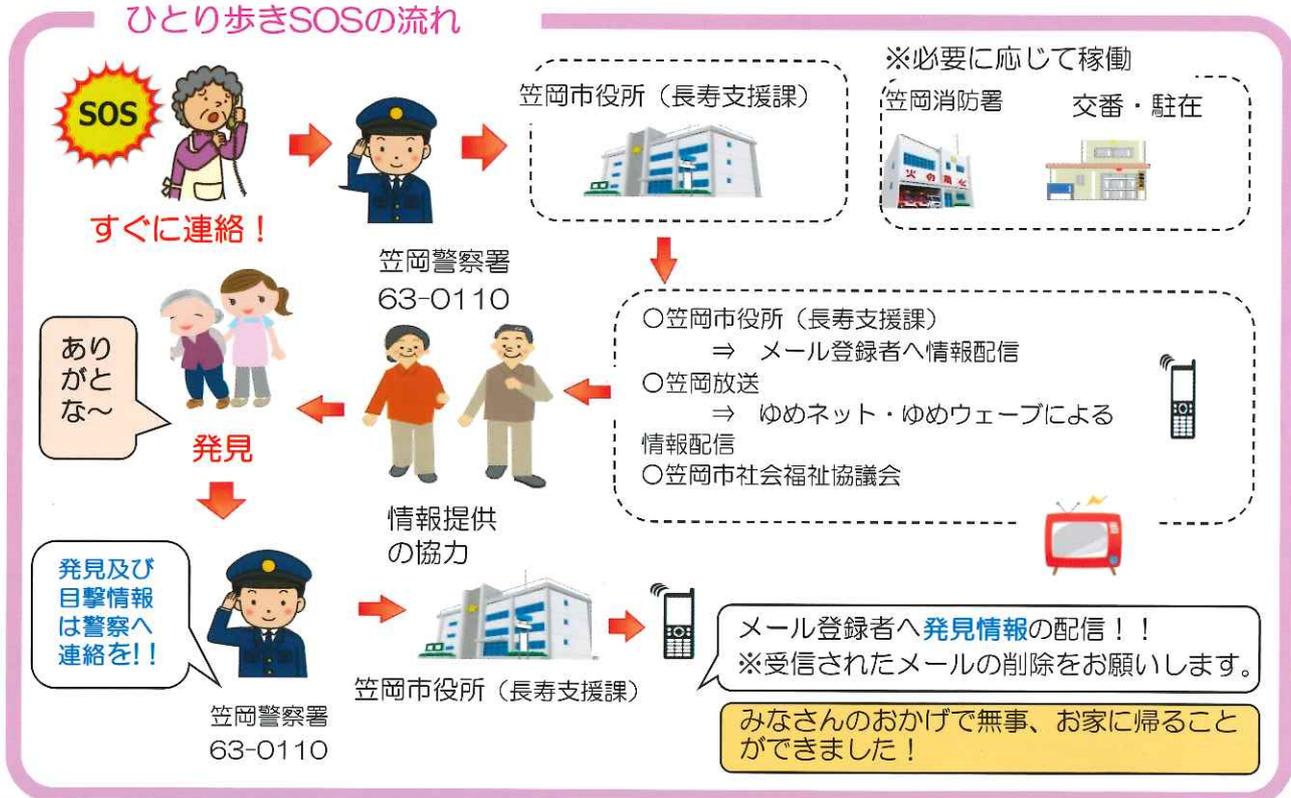
ネットワークの仕組みは、徘徊の恐れがある人の”顔写真”や”身体的特徴”などを記した登録票を、その家族が市の「長寿支援課」に提出します。この情報は、笠岡警察署も共有することになり、登録した人が行方不明になった場合には、市の緊急メール(登録者約2000人)やケーブルテレビ等を通じて市民や協力機関に情報を発信し、地域を挙げて早期発見につなげるというシステムです。このシステムの運用は、平成25年5月から市と市の地域包括センターで行っており、笠岡市によれば、介護認定をもつ市内の認知症患者数はおよそ1,700人で、現在このシステムを利用している人はわずかで、2%にも満たない状況となっています。

65歳以上の高齢者の4人に1人が、認知症もしくはその予備軍とされるなか、笠岡市長寿支援課では、「認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせるように」このシステムの活用を呼びかけています。

なお、この件に対する問い合わせ等については、笠岡市長寿支援課もしくは「地域包括センター」で承りますので、遠慮なくご相談下さい。

『認知症ひとり歩きSOSネットワークの概要』

ひとり歩きSOSの流れ



※ 二次災害防止のためメール配信・笠岡放送による放送は『20:00~翌日7:00』は行いません。

金浦 地域おこし協力隊レポート 第1弾～始まりの巻～

金

浦に住んでから早いもので11か月がたちました。最初の数か月は笠岡市そして金浦地区を知るために、ひったか・おしぐらんどに参加したり神島の長舗邸活用に携わりました。去年の4月から始まった私の活動ですが、初めて取り組むことが多く約1年の間に貴重な経験をたくさんすることができました。そもそもは2015年の11月に古い家を探していて空き家バンクに登録されていた天野さんの家に偶然出会ったことから私の笠岡での生活がはじまりました。そこから、英語の先生をしたり、小学校の道德のゲストティーチャーとして呼んでいただいたり地域の方や子どもたちとかかわることが多くとても楽しい活動をさせていただいています。



金浦幼稚園レッスン風景

英

語教室は私と地域をつなぐ大切な活動の一つです。自宅での英語教室もちろんですが、去年は金浦幼稚園での出張英語教室を7月と10月にさせていただき良い経験が出来ました。普段は自宅で少人数のレッスンをしていますが、幼稚園では5人以上のグループレッスンで私にとっては初めての体験でした。7月のレッスンでは園児と初めて会うので、あいさつや自己紹介を取り入れた内容をし、やっているこちらが楽しいあつという間のレッスンでした。2回目のレッスンは10月31日だったのでハロウィンの単語を練習したり、かぼちゃの数当てゲームをしました。幼稚園の先生方にはレッスン内容を私にらせていただき、レッスン中もサポートして頂いたことに感謝いたします。



ハロウィンイベント風景

ハ

ロウインを金浦の町でしたらきつと面白い！そう思い10月30日によすな会館でハロウィンイベントをしました。今ではすっかりおなじみとなったハロウィンですが、本来のハロウィンの意味を知っている子どもたちはどれだけいるだろう？と思った私はハロウィンの意味や外国の文化に興味を持ってもらうことが重要だと思いました。そこで元同僚のアリスター先生にハロウィンの意味を教えてもらったり、先生が子供の頃のハロウィンの祝い方の話をしてもらいました。先生が英語で説明してくれている間、子供たちが熱心に耳を傾けている姿がとても良かったです。そして、もう一つこのイベントの大切な意味合いとして、普段住んでいる何の変哲もない町がアイデア次第で楽しいイベント会場に変わるということ、自由な発想でこれからも楽しみを見つけていって欲しいという思いがありました。普段見慣れているよすな会館の大広間も、お菓子ハンティングに繰り出した普通の路地もこの日ばかりはちょっと特別に映ったはず。地元の町で楽しい思い出をたくさん作って欲しいし、それを支えてくれる周りの大人達の姿をぜひ覚えておいて、将来自分達が大人になったらそれと同じことを子どもにしてあげられるようになってくればいいですね。ハロウィンイベントを一緒に支えてくださった金浦の皆様、本当にありがとうございました。また来年もハロウィンをやりたい！